

このお話で私が伝えたいのは、失敗を恐れず挑戦することの大切さです。挑戦には失敗はつきものです。だからとても勇気が必要となりますし、実際に失敗することが多いでしょう。しかし失敗することでそれまで気が付かなかった何かに気が付いて成長につながります。そして結果が良くても悪くても、挑戦したからこそわかることがあります。実は今回の私のチャレンジでわかったことがあるのです。いつものみんな大好きは、一瞬で終わるのです。「かめはめ波のポーズを取り入れることで、大好きなエネルギーを長い時間みんなの方に放つことができた。」と感じたのです。これは挑戦したからこそ分かったことです。皆さんもたくさん挑戦して、たくさん失敗して、そこから学んで成長していきませんか。

授業参観についていただいた意見から～きちんと示す必要があると感じました～

今回の授業参観であった出来事やいただいた意見から考えていることをお伝えします。

<出来事>

授業参観に兄弟・姉妹の友人も参加していたり、習い事で指導してくれる指導者やその関係の方たちも参加したりしていた。

<いただいた意見>

祖父母も授業参観に参加したいと言っていたが、名札を各家庭2枚までしか渡されていないため、祖父母は参加を断念した。親以外にも参加ができるようにしてもらえないか。

<このような方向で授業参観について考えています。>

授業参観は、保護者、祖父母、兄弟・姉妹に参加していただくことができる。但し、授業の様子を見やすくするため、1回あたりの授業参観への参加人数は2名以内でお願いしたい。

(理由)

11月に実施する学校開放月間については、「地域や保護者に教育活動への理解を深めてもらう目的」から教育委員会の方針を受けて実施しています。この期間については、保護者や兄弟・姉妹、祖父母以外にも地域の方にも参加していただけます。運動会は、同様の目的をもって、多くの方に参加していただいています。

しかしながら、授業参観は、保護者が子どもの学校での様子(学習態度、友人関係)や先生の指導を直接確認し、学校と家庭が連携して子どもの成長を支えるための場です。そのため、保護者(ご両親や祖父母)に参加していただくことができるようにするのが望ましいと考えます。その際には、就学前の子どもさんがあるご家庭があると予想するため、兄弟や姉妹の参加も認める必要があると考えます。ただし、落ち着いた雰囲気で見やすい状態で授業の様子を見ていただきたいので、必要以上に参観者が多くなることは避けたいとも思います。そのため、参観時に着用していただく名札については従来通り各家庭に2セットの配布とし、1回あたりの授業参観への参加人数は2名以内でお願いしたいと考えています。

入学式や卒業式については、節目となる行事であり厳粛に行うため、参加対象は保護者(ご両親や祖父母)とするのが望ましいと考えています。

卒業式の練習が始まって思うこと～6年前は、・・・今は、本当に有難い。～

3月6日(金)に卒業式の練習に初めて参加させてもらいました。卒業式に参加する4・5・6年生の担任の先生やなかよし学級の担任の先生、音楽専科の先生にとってはいろいろな思いがあったと思いますが、私は感動と6年前のことを思い出して複雑な心境となりました。

私の息子は高校3年生で、3月2日(月)に高校を無事に卒業し、4月からは大学生になります。今は、本当に有難くうれしい時間を過ごしています。しかしながら、6年前の小学校6年生の卒業式は、コロナ禍で3月から学校が臨時休業となりました。そのため、卒業式は卒業生と保護者1名のみでの参加となり、卒業証書の授与と祝辞のみの質素な卒業式でした。

本校の卒業式では、「別れの言葉」のところで6年生が前に出て4・5年生や保護者と向き合う形になり、メッセージを發して、歌を歌います。メッセージの中には、1年生の入学式を迎えたけれど、その次の日から学校は臨時休校になったとセリフがありました。私の息子においては、中学校の入学式を終えてその翌日以降学校が臨時休校だったため、君たちと同じ状況だったのですね(場所は小学校と中学校の違いはありますが)。6日(金)に私は皆さんの練習には立ちあっていましたが、6年前のことをしみじみと感じ、感慨にふけていました。そして思ったのです。息子が小学校の卒業式でメッセージを言って歌を歌っている姿を見たかった。しかし、今となっては叶わない願い、・・・私にとって叶わない夢、その中で皆さんは生きているのですね。だからこそ、その有難さを噛みしめて卒業式の練習と卒業式当日を迎えて欲しいと思います。今は、本当に、本当に有難いですね。

困難や苦難、試練がないことを「無難」と言います。その一方で「難」が「有」ることを「有難い」と言います。この「有難い」から「ありがとう」が生まれたことを皆さんは知っていますよね。無難な人生は一見平穏ですが、それでは成長や達成感が欠けてしまうことも多いと思います。逆に、苦難や困難を経験することで人はその先にあるものに感謝し、達成感を感じて感動したり人生の意義を見出したりすることができるのです。

そして、私が大尊敬する福島正伸先生は以下のように言っています。

問題が大きいかほど その先に 大きな感動が待っている

(解説)

「問題」というやつは目立ちたがり屋で いつも真っ先に現れる

そいつにはシャイな親友がいる 目立つことが嫌いで 後からやって来て
いつも問題の陰に隠れている のぞいて見ようとしても うまく身を隠して
絶対に姿を見せない

問題を乗り越えた人だけが 会うことができる、その親友の名は・・・
「感動」です

引用：福島正伸 著 「20万人に勇気を与えた『夢』が『現実』に変わる言葉」
三笠書房 2008年11月30日 第一版

皆さんも、「有難い」を感じ「問題」を乗り越えることで感動を味わいませんか？